

第79回新制作展鑑賞会並びに飛鳥会参加報告

【第79回新制作展鑑賞会の様子】

9月28日(月)11時に国立新美術館の正面入口に集合とのことで、私は日比谷線「六本木」駅から急ぎ足で待ち合わせ場所に向かった。11時5分前ごろ、すでに五十嵐画伯を含めて8名が待っており、私が最後の参加者だった。

したがって、今回の鑑賞会には8名が参加、早速五十嵐画伯の引率で入場。なお、今回は65歳以上は無料とのこと。

五十嵐画伯から、「他の出品者の作品の説明を事前に聴いているので簡単に説明をしながら見ていきましょう」との提言があり、彼の案内に従って観て回った。先ず驚いたのはすべての作品がキャンバスサイズ150号以上と思われる大きな油絵画が展示されており、新制作展の大作の数が多いことにも圧倒された。相当数観て回ったあと、彼の作品に出会ったのだが、彼は、説明を入れると人はその説明のイメージで観てしまうので、あえて説明しません、とのこと。しばらく五十嵐画伯のこの作品に見入っていました。抽象とも具象ともとれるような構図、筆のタッチで蜂の巣が大きくクローズアップされており、右下には民家と思われる住宅街が描かれておりました。

私の勝手な想像ですが、民家の近くに高さ20メートル以上の大木があり、その上のほうにスズメバチの巣があり、3匹のハチがこれから活動し始まるのではと。

【祝賀会兼ランチ会の様子】

約1時間半ほど鑑賞したあと、千代田線で1本の湯島駅下車「飛鳥」に向かったのですが、湯島駅のホームで本当に偶然でびっくりするようなことが起こりました。

時刻は13時5分、電車を降りて改札口方面に向かってホームを歩いていたところ、五十嵐君は対面して歩いてきた後姿の男性が同級生であることに気づき「マサトモ？」と声をかけたのです。

彼は、正真正銘「木村正知」君で錦中出身の同期生でした。本当にドラマにでもなるような、こんな偶然もあり得るんですね。彼は病院での検診からの帰り道ということで、飛鳥での祝賀会に急遽参加していただきました。

五十嵐画伯祝賀会の乾杯は、私にとっても本当にうまいビールでした。

10名参加の中に錦中学校同期生が4名（五十嵐、星、木村、そして高萩）もいるのですから。

この機会を作ってくれた添田君に重ねて感謝いたします。

そして、星君と話していたら、余談ですが、お墓も同じ八千代中央駅界隈の「八千代ふれあいパーク」ということで、これまた二度びっくりしました。星君とは永久の墓友にもなりそうですね。

話題はいろいろ、話は尽きませんでした。最後に添田君から11月6日にいわき「かにあらい温泉」で黒田君のコンサート計画があるとの話があり、詳細は後日連絡ということで、15時15分前後散会となりました。

こうして、今なお同期生が各界で活躍されている場面で皆が集い、かつての仲間と酒を飲み交わす・・・つくづくいいものだなあ・・・とっております。

添田君はじめ幹事の方本当にご苦労様でした。

拙い文章で恐縮ですが、以上報告とさせていただきます。

高萩良郎